

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 1 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	志村 健	経営	H2001068
	②	望月 俊彦	福祉	H2401035
	③	坂内 八重子	福祉	H2401119
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	若林小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	154-0023		
	所在地	世田谷区若林5丁目27番18号		
	TEL	03-3413-1925		
事業所代表者氏名	事務局長 加賀見 徹			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 30 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 23 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 30 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 10 日			
評価合議日	2025 年 10 月 10 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 1 月 日

事業者代表者氏名 加賀見 徹

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)一人ひとりの子どもにとり、安全・安心・快適な場とする 2) 日常の遊びや年間行事に取り組む中で、友達を思う心情を育て、人として成長できる場とする 3) 子どもたちが楽しく過ごすことができる環境づくりを行う 4) 子どもの人としての成長を育むため、各学年に応じた育成を行う 5) 衛生環境の更なる推進に取り組み、感染等が広がらない場とする</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割 各自のポジショニングにおいて、子どもたちに寄り添い、思いを受け止め、臨機応変に粘り強く人としての成長を図る</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 組織として一体感をもって運営にあたるため、日々のミーティングや月例ロングミーティングなどを通じ、情報共有・共通理解を図る</p>

調査対象	登録児童全員を対象とした。
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 146

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	146	0	146
共通評価項目による調査の有効回答者数	48	0	48
利用者総数に対する回答者割合(%)	32.9	0.0	32.9

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者146名のうち、48名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、47名が「大変満足、満足」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「学童クラブは楽しい」「遊ぶものがたくさんあってとっても楽しい」「もっとおもちゃや本を増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	42	5	0	1
42名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「おもちゃで遊ぶのが楽しい」「他の学年の友達もできて嬉しい」「校庭や体育館で遊べるのが楽しい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	39	6	1	2
39名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「先生は優しい」「ケンカした時に相談に乗ってくれる」「話を聞いてくれたり、そうじゃないこともあった」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	39	4	3	2

39名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「めちやくちゃおいしい」「いろいろなのが出ておいしい」「おやつが少量が少ない」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	23	9	1	15
23名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「話し合いをしたことがないのでわからない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	34	5	1	8
34名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。約束ごとについて職員から説明を受けている様子がうかがえる。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	35	12	0	1
35名が「はい」、12名が「どちらともいえない」と回答している。また、「かなりきれい」「いつもすごくきれい」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	42	2	1	3
42名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。職員の対応が丁寧であると受け止められている様子がうかがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	46	2	0	0
46名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生は助けてくれる」「ケガはしたことない」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	41	2	0	5
41名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生は助けてくれる」「先生には話しづらい」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	5	0	2
41名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。子ども主体の対応が実践されている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	30	7	0	11
30名が「はい」、7名が「どちらともいえない」と回答している。また、「内緒のことを話したことはない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	38	3	1	6
38名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「みんな優しい」「困ったり嫌だなと感じたことがない」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	19	5	2	22
19名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」、22名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	子どもの社会性と挑戦する力を育む温かな居場所づくりに努めている 新BOP学童クラブでは、区が掲げる「7つの目標」の中でも特に「日常生活を大切に、子どもが行きたいと思える場所であること」を重視している。安全に過ごす場にとどまらず、子どもたちにとって「第二の家庭」と感じられる温かな環境づくりを理念の中心に据えている。その実践として「挨拶をする」「ルールを守る」「何事も楽しむ」の三つを基本とし、子ども・保護者・職員が共に意識を共有している。これらの方針は、コミュニケーション力や社会性、前向きに挑戦する力を育むものであり、学童クラブ全体の雰囲気明るくしているといえる。	
	調和と協調を理念に現場の声を尊重した運営を進めている 「調和と協調による組織運営」を基本理念とし、全員が主体的に関わる合意形成型のマネジメントを実践している。事務局長はリーダーとして先頭に立つのではなく、児童指導とともに職員の意見を丁寧に汲み取り、現場の声を尊重する姿勢を徹底している。教育と福祉の異なる体系を持つ職員が混在する中で「和の融合」を掲げ、双方の強みを活かした運営を推進している。枠にとらわれず、必要に応じて新しい取り組みを柔軟に導入することで、失敗を恐れず挑戦できる組織文化を育んでいる。協調と挑戦を両立させる運営を進めている。	
	三つの「間」の理念を基盤に、柔軟で安心な居場所づくりを進めている 事業運営の三本柱である「時間・空間・仲間」のうち、空間の確保が今後の大きな課題となっている。備品や教材の充実に伴い活動スペースが狭くなる中でも、職員は限られた環境を工夫して活用し、子どもたちが安心して過ごせる場づくりに努めている。延長利用は安定して推移しており、利用ニーズに応じた柔軟な運営が行われている点も特徴である。また、地域や保護者との連携を深める取り組みを進め、「仲間」としてのつながりを強化している。今後は、現場の実情を区的に伝え、公設学童としての安心感と信頼性をより高めていくこととしている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>遊びを通じて創造力を育み、地域とつながる居場所づくりを進めている</p> <p>子どもたちの遊びに対する主体性が高まっていると分析する。従来の遊びに独自のルールを加えるなど、自ら工夫して楽しむ姿が多く見られ、創造性が自然に生まれている。職員は、このような変化に応じて柔軟に支援し、子どもの発想を尊重しながら安全で自由な環境づくりに努めている。保護者との関係も良好で、日常的な対話を通して信頼関係を築き、小さな要望にも丁寧に対応している。これらの積み重ねが、安心して通える環境の基盤となっている。</p> <p>登録児童の増加を背景に、安心と信頼の環境づくりを進めている</p> <p>全校児童約550名に対し、BOP登録児童は約460名にのぼっている。「登録しておく」という保護者の声の広がり、新BOP学童クラブが安全で快適な居場所として定着していることが背景にある。保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりが、地域全体の信頼基盤を支えているともいえる。今後も児童数はおおむね横ばいで推移すると見込まれており、将来的な減少を見据えた運営体制の見直しや地域連携の強化が課題となっている。学童クラブでは、地域に支えられながら、次世代を見据えた安定的な発展を目指している。</p> <p>教育・福祉・地域をつなぐ横断的連携で協働モデルの確立を進めている</p>		

事務局長は、定期・臨時の事務局長会を活用して課題を共有し、現場の声を基に要望を形成していく方針を示している。児童館長会との連携も強化し、実効性を高めることを目指している。また、縦割りではなく横のつながりを重視し、同じ児童館管轄の学童クラブとの情報共有や協力体制を通じて地域課題の解決を図っている。立地の利点と職員間の良好な関係を活かした運営を実現しており、教育・福祉・地域をつなぐ協働モデルとして、区全体への波及が期待される。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ3の講評

**職員同士が互いを尊重し合いながら、子どもを中心に据えた教育的支援を進めている**

「子どもの尊厳を守ること」を運営の根幹に据え、区の子ども施策方針に基づいた実践を行っている。年度初めには区の方針を共有し、全職員が人権意識をもって子どもと向き合う姿勢を確認している。また、新BOP学童クラブ独自の方針資料を整備し「すべての子どもが尊重される場」であることを明示している。非常勤職員も含めた共通認識を形成し、運営の透明性と一貫性を確保している。日々の支援では「公平性と個性の両立」を重視し、子どもの特性に応じた柔軟な関わりを実践している。

**苦情対応を通じた迅速な共有と未然防止により、保護者が安心できる運営を推進している**

「子どもの声を拾う」「早期解決」「情報共有」を柱とした苦情対応体制を整えている。実際には保護者からの苦情はほとんどなく、アンケートでも「おもちゃを増やしてほしい」等の意見が多い。トラブル発生時には、子ども同士の対話を通じて解決を促し、その日のうちに保護者へ経緯を説明している。転入児童の増加に伴い、施設文化の理解促進にも力を入れ、日々のミーティングや月例ロングミーティングなどで共有を徹底している。信頼と安心を基盤にした運営を目指している。

**地域を基盤に学校・児童館と連携し、地域に根差した運営を進めている**

地域や学校・児童館・新BOP学童クラブを一体として捉え、地域に根ざした運営を行っている。お祭りなど地域行事への保護者や地域の方々の関わりが、子どもたちの育みを支える基盤となっており、地域全体が育成の一部として機能している。今後は、商店街や図書館等を通じ、地域資源の活用、学習活動を進め、地域との更なるつながりを育むことを目指している。行政との連携では、現場の声を正確に届け、支援体制の改善を共に検討・推進する姿勢を持っている。「地域とともに成長する新BOP学童クラブ」のあり方を追求している。

4			カテゴリ-4	
リスクマネジメント				
サブカテゴリ-1(4-1)				
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(00000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)				
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(0000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している			○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○非該当
カテゴリ-4の講評				
<p>将来的な人材難をリスクと捉え、働き手の確保に向けて仕組みづくりを進めている</p> <p>今後の課題として「人材の世代構成と後継者育成」を重視している。中堅層の減少や高齢化が進む中で、若手の育成と定着を図るため、資格取得支援やプレイングパートナーの起用をしている。特に大学生の採用を通じ、教育現場を志す若者が新BOP学童クラブでの実践を経験し、地域の放課後支援に貢献できる仕組みづくりを進める。また、待遇面の改善にも取り組み、職員の意欲向上と職務継続の環境整備を行っている。児童数の変動にも柔軟に対応し、地域と共に支え合う運営モデルの構築を目指している。</p> <p>現場と区が連携し、夏季の災害対応力向上と体制強化を進めている</p> <p>事業継続計画(BCP)における夏季休暇期間の運営リスクを重要な検討課題としている。学校教職員が少なくなる時期に災害が発生した場合の判断や対応手順を整理し、実践的な対応力の向上を目指している。区でも夏季を想定したBCP原案の整備が進められており、現場が課題を共有し改善へとつなげる動きがある。今後は、運営再開の基準や保護者への連絡体制など、実際に機能するBCPの構築を進める方針である。地域任せにせず、新BOP学童クラブとしての対応力を高めることで、災害時にも安心して子どもを預けられる学童クラブを目指している。</p> <p>厳格な基準を遵守しICTとアナログの併用による運用最適化がされている</p> <p>子どもの安全と個人情報保護を最優先に、区の厳格な基準を順守したICT運用を行っている。事務局と指導部で権限と管理を明確に分け、効率性と安全性の両立を図っている。現行システムは保育・幼稚園向け仕様が中心で学童には適合しづらい面もあるが、ベンダーと連携し学童専用モジュールの改良を進めていく意向である。また、連絡帳などアナログの価値も尊重し、ICTとの併用でリスク分散を図っている。今後は、現場からの改善提案を区全体で共有し、利用者負担を抑えつつ、より実践的で使いやすいシステムづくりを推進していく方針である。</p>				

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

## カテゴリ-5の講評

### 現場連携を基盤に人材確保と育成体制の強化が図られている

安定した支援体制の維持を目的に、非常勤職員とプレイングパートナーによる柔軟なシフト運用を行っている。急な欠勤時にはプレイングパートナーの対応が大きく寄与し、現体制の中でも随時採用可能な柔軟性を確保している。また、指導員の配置は区の判断に委ねられているため、欠員時の即応性が課題ともなっている。教育・指導面は日々のミーティングを通じて行い、現場の連携力によって不足を補完している。人員体制は「子ども7つの目標」「3つの間」の実現を支える基盤であり、今後は人材確保と育成体制の強化を重点課題としている。

### 現場主体の学び合いを軸に、公設学童クラブとしての質向上を目指している

公設学童クラブとしての質向上を重視している。区内全体での標準化の視点に加え、独自の強みを発揮できる体制づくりを目指している。職員研修は指導員を中心に整備が進み、近年はオンラインのものもあり、アレルギー対応など実務に直結した内容を全職員が学べる環境が整う。一方で、非常勤職員やプレイングパートナーへの体系的な研修機会の拡充が今後の課題である。まずは区が基盤的な研修体系を構築し、その上で現場が主体的にテーマを提案・検討できる環境を整えることで、学びを通じた質の向上が期待される。

### 現場との乖離を解消し人材育成の実効性向上を目指している

研修制度の質向上を喫緊の課題と捉え、実効性のある人材育成体制の構築に取り組んでいる。特に、児童課が中心となる研修については、頻度や内容の見直しを進め、現場との乖離を解消することを重視している。そのために、課の事務職員が現場を体験する研修を昨年10月より導入し、現場実習を行っている。この取り組みは、実際の支援環境を理解したうえで研修内容を再設計することを目的としている。現場と事務局の双方向的な学びを通じて、組織全体の理解と支援の底上げを図り、より実践的で効果的な研修体系の確立を目指している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

組織・運営力を向上させ、子どもたちが安心して過ごせる環境を維持するための基盤をつくる。

【取り組み】

子どもたちへの育成の質を維持・向上させるため、日常の気づきや工夫を共有し、日々のミーティングや月例ロングミーティング等で職員同士が互いに学び合う体制を築く。

【取り組みの結果】

職員の育成は、各種研修体系の充実や職員間の協働的な学びを通じ、専門性の向上と職場の活気ある雰囲気を実現することができている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

日々の短時間の打ち合わせから月例ロングミーティングまで、日常的な対話を通じて実践的な知識と対応力を磨いている。特に、他の職員の経験や事例から学ぶ機会が多く、互いの視点を共有し合う風土が根付いている。ミーティングは業務の一環に加え「日々の小さな研修」として機能しており、この積み重ねが現場力を高め、支援の質の向上につながる。今後は、日々の事例を体系的に蓄積・活用し、学びの共有基盤として発展させ、職員育成の場としてさらに魅力を高めていくことを目指している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

子どもたちの安心・安全を守るため、教育と福祉が連携する場としての役割を果たす。

【取り組み】

安全管理、リスク対応について、訓練や資料等の確認をし、子どもたちが安心して過ごせる環境の整備を強化する。

【取り組みの結果】

学校だけではなく、保護者や地域との信頼関係を深めることで、さらなるリスクマネジメント体制の強化を目標設定とすることができている。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもの安心・安全な環境づくりを最優先課題とし、昨年度は活動場所の整備と安全運用の向上に注力した。新BOP職員事務室前の廊下や多目的ルーム、校庭、体育館、図書室、松陰ストリートなどの空間を有効活用し、子どもの人数や活動内容に応じた適切な環境を提供している。教職員との連携を密にし、動線上の安全確認や環境点検を徹底することで、安心して過ごせる空間を維持している。平日・土曜日ともに安定した利用が続き、保護者から高い評価も得ている。今年度は既存環境の維持と防災・安全対策の強化を重視し、信頼される学童クラブ運営の実現を目指している。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している ○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>子どもや保護者が安心して利用できるよう、事業運営に関する情報を提供している</p> <p>新BOP学童クラブでは、子どもや保護者が必要な情報を確実に入手できるよう、さまざまな媒体を活用している。区のホームページや連絡帳、登退所連絡アプリ「コドモン」、月刊「若林小新BOPだより」などを通じ、行事、日常の活動、連絡事項等を適切に伝えている。また、児童館への情報提供に加え、保育園の保護者会に参加し、就学後の学童クラブ利用についての説明も行っている。こうした取り組みを通じ、子どもと保護者が新BOP学童クラブを安心して利用できるように努めている。</p> <p>丁寧な対話と情報発信により、子どもと保護者から信頼される運営づくりを進めている</p> <p>新BOP学童クラブでは、子どもや保護者が安心して参加できるよう、情報の表記や内容をわかりやすくしている。行事案内やお知らせでは、親しみやすい言葉を用い、シンプルで見やすいレイアウトやフォントにも工夫を凝らし、まとめている。また、日々の連絡やお迎え時の短時間の会話など、限られた時間を有効に活用し、保護者との意思疎通を丁寧に行っている。保護者からの意見や要望は職員間で共有し、協議を経て対応している。こうした取り組みにより、子どもや保護者に信頼される学童クラブづくりを進めている。</p> <p>見学や問い合わせに丁寧に対応し、信頼関係を築く運営を行っている</p> <p>新BOP学童クラブでは、保護者からの問い合わせや見学の要望に対し、丁寧に対応している。見学を希望する保護者には、活動内容や子どもたちの様子を見てもらいながら、学童クラブの特徴や運営方針、一日の過ごし方などを説明している。転入や越境などで利用を希望する家庭に対しても柔軟に対応し、安心して利用できるよう配慮している。対応の内容は日々のミーティングで職員間で共有・確認している。こうした対応と確実な情報共有を通して、保護者が安心して相談できる体制を整え、信頼に基づく学童クラブの運営に努めている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>複数の媒体と統一した職員対応により、安心して利用できる体制を整えている</p> <p>新BOP学童クラブでは、開始時に子どもや保護者へ利用上の基本ルールや重要事項を丁寧に説明し、理解を得られるようにしている。入会説明会や面談、配布資料に加え、お便りなどを用いて情報提供を行い、家庭でも確認できる仕組みを整えている。個別の質問や不安に対しては、事務局長、常勤職員の児童指導が柔軟に対応し、内容を職員間で共有することで、誰が対応しても差異のない体制を維持する。こうした丁寧な説明と情報共有により、保護者が安心して子どもを預けられる環境と子どもが安心して学童クラブ生活を始められる基盤を築いている。</p> <p>意向・要望を共有し、統一対応を行い、安心して過ごせる環境を整えている</p> <p>新BOP学童クラブでは、子どもや保護者の意向・要望を丁寧に聞き取り、日々のミーティングを通して共有、記録をしている。各職員が聞き取った内容もメモに残し、昼と夕方のミーティングで発表、確認を行っている。ミーティング用の専用ノートに記載した内容は、全職員が閲覧できるように新BOP職員事務室で保管する。保護者からの電話連絡の内容も記録化され、事務局長と常勤職員が中心となって対応、共有している。こうした情報共有により、子どもと保護者の状況や意向を踏まえた対応を職員全体で統一し、安心して過ごせる環境を整えている。</p> <p>情報共有と個別配慮による環境作りや、年度末には新しい生活への環境作りをしている</p> <p>新BOP学童クラブでは、入会前の生活習慣や家庭での様子を保護者から聞き取り、必要に応じて学校からの情報も踏まえながら、日々の受け入れに活かしている。集団生活などで配慮が必要な子どもについては、事務室や多目的ルームなども活用し、安心して過ごせる環境をつくっている。父母会の協力により、静養用のテントなど必要な備品を整備し、子ども一人ひとりの特性に応じた落ち着けるスペースを確保している。また、年度末には、保護者や学校と連携し、次の生活への移行準備に取り組み、子どもが安心して新たな環境へ適応できるよう努めている。</p>		

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>「生きる力を育む」を基盤に、学年担任制と連携体制で計画的な育成支援を進めている</p> <p>新BOP学童クラブでは、運営方針の基盤となる「生きる力を育む」を軸に、年間の振り返りと次年度の見通しを職員全体で確認しながら取り組んでいる。特に学年担当制のもと、子どもたちの活動の達成や変化、日々の気づきを日々のミーティングやロングミーティングで共有し、計画の見直しにつなげている。配慮が必要な子どもについては、児童票や記録をもとに支援の方向性を整理し、学校や保護者と連携して柔軟に対応している。入会時にはしおりやお便りを利用して運営目標や利用内容を丁寧に説明し、家庭と共に子どもの成長を支える体制を整えている。</p> <p>日々の記録と多様な保護者連携手段を通じて支援を共有し、子どもの成長を支えている</p> <p>新BOP学童クラブでは、子どもの特性や生活状況を踏まえ、ミーティングの記録ノートを通して、日々の子どもの様子や利用状況、職員の気づき、連絡事項などを丁寧に記録している。保護者とのやりとりは、電話や連絡帳、面談、保護者会、お迎え時の会話など多様な場で行い、子どもの遊びや生活の様子、職員の関わりを共有している。ICT活用は、出欠や体調など保護者が入力する範囲にとどめている。職員間では記録をもとに関わり方を見直し、配慮が必要な子どもへの支援を連携して進めるなど、記録を活かした体制づくりに努めている。</p> <p>多様な職員の学び合いと専門的助言による支援の質向上の体制づくりが期待される</p> <p>新BOP学童クラブでは、取り組み内容や子どもの状況、職員の気づきを全職員で共有するため、子どもたちの登所前や夕方などに複数のミーティングを設け、記録ノートや付箋を活用して迅速な申し送りを行っている。必要な情報は常勤職員が中心となり、継続的な支援につながるよう対応している。職員は多様な経験や得意分野を活かして意見交換を重ね、互いに学び合いながら支援の幅を広げている。今後は、こうした学びの積み重ねに、助言を継続的に受ける機会を確保し、支援の質を高める体制づくりが期待される。</p>			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>保護者の同意を得て情報管理を徹底し、子どものプライバシーを組織的に守っている</b>            新BOP学童クラブでは、子どもに関する情報を外部とやりとりする際には保護者の同意を得る体制を整えている。写真や記録の扱いでは、個人が特定されないよう修正を行うなどの配慮も徹底されている。また、虐待対応など緊急時の通報についても職員間で共通理解を図り、迅速な対応を可能にしている。さらに、運営に関わるマニュアル類を整理し、全職員で共有することで活用できる体制を整えている。個人情報も取り扱い範囲を限定し、漏えい防止を徹底するなど、子どものプライバシーを守る仕組みづくりが組織的に進められている。</p> <p><b>子どもの個性と思いを尊重し、家庭・学校と連携した安心な居場所づくりを進めている</b>            新BOP学童クラブでは、日常の援助の中で子ども一人ひとりの個性や発達の段階を丁寧に受けとめ、安心して過ごせる環境づくりを大切にしている。子どもの思いや日々の出来事は、ミーティングや職員同士の話し合いを通して共有し、関わり方を一緒に考えている。また、家庭や学校、地域とのつながりを重視し、保護者の考え方や生活習慣の違いにも寄り添いながら、子どもの生活リズムに合わせた支援を行っている。こうした取り組みにより、子どもの意思を尊重し、温かく見守られる居場所づくりが進められている。</p> <p><b>暴力やいじめ防止の方針統一と研修で対応力を高め、安心できる環境づくりを進めている</b>            新BOP学童クラブでは、子ども同士の暴力やいじめの防止に向け、職員間で方針を統一し、組織的に取り組んでいる。見守りの基準や声かけの方法を共有し、どの職員が対応しても同じ判断ができる体制づくりをする。また、事案発生時には報・連・相を徹底し、速やかに事務局長や常勤職員へ報告することで迅速な対応を図っている。さらに、職員は集合研修やオンライン研修などを通じて知識と倫理を深め、支援の向上に努めている。今後は、身近な事例検討を取り入れ、子どもが安心して過ごせる安全な環境づくりの一層の充実が期待される。</p>		

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 <span style="float: right;">サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5</span>
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー6の講評	
<p>計画的な点検と日々の気づきを反映した業務改善の仕組みづくりが期待される</p> <p>新BOP学童クラブでは、区が作成したマニュアルを基に、防災や感染症対応、怪我、体調変化への対応など、日常の支援に関わる基本事項を明確にし、職員間で共有している。また、独自の災害時・緊急時対応の手順表を作成し、年度ごとに内容を見直すなど、安心して活動できる環境づくりに努めている。一方で、手順や対応内容の見直しは定期的な点検ではなく、改定や変更が生じた際の都度対応にとどまっている。今後は、振り返りやミーティングを通して点検を計画的に行い、日々の気づきを反映した業務改善の仕組みづくりが期待される。</p> <p>マニュアルの活用により職員の共通理解を深め、統一した対応力の向上が期待される</p> <p>新BOP学童クラブでは、区などが作成したマニュアルを基に、災害時やケガ、嘔吐など体調不良時の対応内容を確認し、職員間で共有している。事務室には資料等が備えられ、誰もが確認できる環境を整えている。また、新任職員には説明や立ち会いを通して理解を促している。一方で、対応方法の確認は職員間での口頭伝達に頼る場面が多く、文書としての活用や研修の機会が十分とはいえない。今後は、マニュアルを用いた点検や学童クラブ内の実技研修を取り入れ、職員全体で統一した対応力を高めていくことが期待される。</p> <p>自己チェックと利用者の声を活かし、運営の改善と質向上の仕組みづくりが期待される</p> <p>新BOP学童クラブでは、区が作成した自己チェックシートを活用し、職員が自らの職務を振り返り、課題意識を高める取り組みを行っている。また、子どもや保護者との日常的なやりとりから得た意見を日々のミーティングで共有し、運営に反映する姿勢も大切にしている。一方で、自己チェックの結果や集約された子ども・保護者の意見は、支援や個別の配慮に活かされているものの、全体的な運営改善へ反映する仕組みは十分とはいえない。今後は、共有された声や気づきを整理し、運営全体の見直しと質の向上に活かす仕組みづくりが期待される。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	28 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>発達や生活環境を踏まえた育成により、子どもたちが力を発揮し、意欲的に活動している</p> <p>子どもの発達段階や生活環境、家庭状況を丁寧に把握し、その子に応じた育成・支援を行っている。日々の様子はミーティングを通して記録し、職員間で共有、支援の方向性を統一している。支援内容は年齢や発達の特性に合わせて柔軟に対応し、安心して生活できる環境を整えている。また、保護者が来訪した際には子どもの成長や変化を伝え、共通理解を深めることで信頼関係を築いている。家庭と新BOP学童クラブが連携して子どもを支えることにより、子ども一人ひとりが安心して力を発揮し、意欲的に活動できる環境づくりにつながっている。</p> <p>多様性を尊重し、自分らしく過ごせる豊かな集団づくりに取り組んでいる</p> <p>年齢や習慣の違いを認め合い、互いの個性を尊重しながら協力して生活できるよう支援している。異年齢での交流や日常の遊び・活動を通して自然な関わりを促し、相手を思いやる気持ちや協調性を育てている。関係づくりが難しい子どもには職員が寄り添い、安心して集団に参加できるよう支えている。また、一人ひとりの考えや意見を大切に、自分の思いを表現しながら他者を受け入れる経験を重ねている。こうした姿を保護者にも伝えることで理解を深め、多様性を尊重しながら自分らしく過ごせる関係性の豊かな集団づくりを目指して取り組んでいる。</p> <p>傾聴を通じた気持ちの理解と、安心できる育成環境の実現を目指している</p> <p>子ども同士の意見の違いやトラブルが生じた際には、別室で話を聴き、感情の高ぶりを落ち着かせながら相互理解を促している。子どもが自分の思いを言葉で表現できるよう支援し、気持ちを伝え合う中で関係の修復や学びにつなげている。発達面で配慮が必要な子どもには寄り添い、安心して自己表現できる環境を整えている。丁寧に関わりにより、子どもたちの自己肯定感や他者理解の力が高まり、集団生活での自信や安定につながっている。保護者には個人情報に配慮しつつ、連絡アプリや連絡帳を活用して子どもの様子を共有し、家庭との連携を図っている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>地域ぐるみの支えを活かし、安心感のある環境で主体的な経験の蓄積が期待される</p> <p>地域には祖父母の代から暮らす三世代家族も多く、学校や学童クラブへの愛着が深いため、家庭との連携が自然に図られている。このような地域性は、子どもを地域全体で見守る体制につながり、育成の大きな支えとなっている。また、子どもたちが職員を親しみを込めて愛称で呼ぶなど、親しい関係が築かれている。こうした関係性は子どもに安心感を与え、生活や遊びを自ら選択し、主体的に行動する基盤となっている。今後もこの良好な環境と関係を維持しつつ、子どもの声を活動に丁寧に反映させることで、主体的な経験のさらなる蓄積が期待される。</p> <p>集団活動を通して、協力・学び合いを促す仕組みが充実している</p> <p>日常の集団活動では、ドッジボール、キックベース、サッカーなどの協力や役割分担が自然と生まれる遊びが継続的に取り入れられている。また、カードゲームやボードゲームは感情の調整や相手への配慮といった社会性を育む機会となり、異学年が関わり合いながら学び合う環境が整っている。職員は子どもが主体的に役割を担えるよう声かけを行い、協調性やコミュニケーション力の育成を支えている。地域のコマ達人や、職員が大人として遊びを楽しむ姿を示す取り組みも、子どもの視野を広げる貴重な経験となり、集団での学び合いをさらに促進している。</p> <p>子どもの発達段階への配慮と成功体験を支える丁寧な育成支援が行われている</p>			

子ども一人ひとりの発達段階や生活状況に応じた支援が行われており、子どもたちが挑戦しやすいよう工夫した編み物やコマ、ベーゴマなどの活動が準備されており、成功体験を積み重ねる機会もある。季節の行事では、生活のリズムや季節感を味わう経験もすることができる。一方で、職員が全体を見守る必要から個々の遊びに十分に関わりきれない場面も見られ、関わり方に課題が残る。また、事例検討や情報共有をさらに充実させることで、子どもそれぞれの状況に応じた育成をより丁寧に実践していくことも期待される。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>子どもたちの興味関心を高め、主体的に参加できる活動を工夫している</b></p> <p>子どもが日常の中で新鮮な刺激を得られるよう、行事は興味や発達段階に応じた内容となるよう工夫している。職員は子どもの様子を丁寧に捉え、協力や助け合いが生まれるよう支援している。例えば、逆上がりの練習では達成に向かう子どもの姿をミーティングで共有し、成果や課題を支援に活かしている。また、日常の会話から生まれたダジャレをおたよりのコーナーとして継続的に取り上げるなど、子どもの発想を発展させる工夫も行っている。この関わりは子どもが主体的に参加できる雰囲気づくりにつながり、日常生活に変化と潤いをもたしている。</p> <p><b>子どもの発想を活かした企画づくりの機会を喜びと達成感につなげている</b></p> <p>子ども自身の「やってみたい」という気持ちを尊重し、意見やアイデアを取り入れている。日々のミーティングでは子どものつぶやきなど話題を提供し、情報を共有している。職員は日常の遊びや会話から子どもの思いに気づき、それを企画へとつなげられるよう、アンテナを張り子どものニーズに応えている。遊びでつくったブロック作品や活動の様子を画像に収め、保護者会で紹介するなどし、子どもたちの取り組みが記録として残り、達成感の共有につなげている。自分の発想が活動に反映される喜びを味わい、自信も生まれている。</p> <p><b>保護者・地域との連携と協力体制を活かし、日常の活動をより豊かにする基盤としている</b></p> <p>父母会の縮小が多く見られる地域の中であっても父母会が存続しており、備品や消耗品の寄付など継続的な支援を受けている。また、学校・自治体・商店街等が協力する季節行事や地域の子どもまつりでは、希望する子どもがお店を構える形で参加できる機会も設けられている。行事前には「新BOPだより」や「コドモン」などを通じて情報共有を行い、家庭が安心して協力しやすい体制を整えている。保護者・地域との連携を大切にすることは、子どもの社会的経験を広げるだけでなく、行事の質を高め、日常の活動をより豊かにする基盤となっている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>第二の家庭として子どもが安心して過ごせる居場所づくりに努めている</b></p> <p>子どもたちが「また行きたい」と思えるよう、安心して過ごせる体制づくりに努めている。子どもの気持ちに寄り添い、心の安定と学童クラブへの親しみがもてるよう、登所時には「おかえりなさい」と声をかけ、第二の家庭的な雰囲気の中で温かく迎えている。トラブルが生じた場合には、その日のうちに解決・解消できるよう配慮し、安心した気持ちで翌日を迎えられるよう支えている。さらに、保護者や学校との連携を深め子どもの生活状況を共有し、継続的な成長を支援している。子どもたちが自分の居場所だと実感できるよう、丁寧な寄り添いを続けている。</p> <p><b>自分で考えて行動できる力を支援し、自己管理や協調性が無理なく育つよう努めている</b></p> <p>子ども一人ひとりが自ら考えて行動できるよう、日々の生活の中で主体性を育む支援に努めている。「〇〇しなければならぬ」という押しつけを避け、自分で判断する経験を積み、無理なく自立へ向けて成長できる環境を整えている。生活の流れを理解しやすいよう、スケジュールを視覚化し、戸惑いがちな子どもも見通しをもって行動できるよう支援している。活動の切り替えが苦手な子には、理由や必要性をゆっくり説明し、納得しながら行動に移れるよう関わっている。こうした支援によって、自己管理や協調性が自然に身につくよう努めている。</p> <p><b>子どもが安心して楽しく活動できるよう、環境づくりを進めている</b></p> <p>子どもに限られたスペースでも安心して遊びや活動を楽しめるよう、発達段階や興味に合わせた「ルールのない遊び」「体を動かす活動」「じっくり取り組める遊び」など、多様なジャンルを増やし、子ども自身が主体的に選べる環境を整えている。活動場所を広げるため、校庭や体育館、多目的ルームを学校から借用したり、通路の松陰ストリートを活用するなど、のびのびと過ごせる時間を確保している。さらに、職員同士が情報を共有し、その日の様子に応じて環境や遊具を見直すことで、安全で心地よく過ごせる場の維持に努めている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>子どもの姿を学校と共有し、放課後の生活がより充実した時間となるよう支えている</b></p> <p>学校との連携を重視し、1年生から3年生までを対象とした情報交換会を設け、日常の様子や学習面、友人関係などを丁寧に共有している。職員は学校と学童クラブで見られる子どもの姿の違いや小さな変化に気づきながら理解を深め、支援に活かしている。また、日常的にも学校と相談できる体制を整え、困りごとの早期把握や支援への反映につなげている。さらに、保護者とも連絡帳や「コドモン」等でこまめに連絡を取り合い、課題の共有と安心できる環境づくりに努める。職員間でも随時情報共有し、子どもの状況に応じた柔軟な対応を心がけている。</p> <p><b>困難を抱える子どもも、安心して集団生活に向き合える関わりを大切にしている</b></p> <p>教室に入れず保護者の付き添いが必要な子どもも、学童クラブでは落ち着いて過ごせるよう配慮し、集団の中で少しずつ自信が持てるように支援している。医療的ケアが必要な子どもについては養護教諭と良好な連携を保ち、学童クラブで安全に過ごせる体制を整える。職員は専門研修を受講し、子どもの発達や行動特性を理解しながら適切な関わり方を学んでいる。さまざまな課題を抱える子どもも、自分のペースで安心して生活や遊びに参加できるよう、寄り添った関わりを大切に、自分らしさを発揮し安心して集団生活に向き合うことができている。</p> <p><b>関係機関と協力しながら専門性を活かした支援を進め、支援力の底上げにつなげている</b></p> <p>障がいのある子どもや特別な配慮が必要な子どもに対し児童票を提出してもらい、特性や配慮事項を把握したうえで育成に活かしている。特別支援学校から通う子どもについても受け入れており、時に衝動性が見られる場合には、エスケープへの対応や安全確保を職員間で確認し、落ち着いて過ごせる環境を考えている。また、療育機関による年1回の巡回指導を受け、専門的な助言を支援に取り入れている。職員同士が意見を交わし、モチベーションをあげ、得られた内容は職員間で共有するなど、学童クラブ全体の支援力の底上げにつなげている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>安心して楽しく食べられるおやつの時間と心地よい空間を工夫している</b></p> <p>子どもがおやつを楽しめるよう、座席は固定せず、窮屈にならないよう適度な距離を保ちながら、自然に交流が生まれる雰囲気を心がけている。退所時刻や活動の区切りに合わせ、子どもがリラックスして食べられるタイミングを大切にしている。また、オーガニックなものなども取り入れているほか、子どもが楽しめる工夫を凝らし、おやつの時間そのものがうれしいひと時になるよう努めている。子どもからは「楽しい」「いろいろ出ておいしい」といった声がある一方、好みと合わない意見もあり、今後の改善につなげる。</p> <p><b>生活リズムに寄り添いながら、間食の提供時刻や内容、量に柔軟な対応を行っている</b></p> <p>登所時刻や夕食の時間帯を考慮し、間食の提供時刻や内容、量を柔軟に対応している。単に食べるだけでなく、リラックスして生活の流れを整えられるよう、室内環境にも配慮している。日々の活動内容により、提供時刻が流動的になる場合もある。子どもたちが適切なタイミングで栄養をとれるよう、体調や生活リズムに応じた対応を心がけている。今後は子どもの意見や反応を取り入れ、保護者にはおやつの内容や配慮についてさらに丁寧に説明することで、質の向上と安心、安全の確保につなげることを目指している。</p> <p><b>食物アレルギーの子どもが安全に間食をとれるよう、情報管理と確認作業を徹底している</b></p> <p>アレルギー情報を正確に把握し、特別食は通常食と区別するため新BOP職員事務室でおやつを提供し、環境面にも細心の注意を払っている。個別対応では、プレートに名前とアレルギー名を表示し、提供前の再確認を必ず行うなど、安全性を高める工夫を継続している。職員はアレルギー対応に自負を持つ一方、別室提供による孤立感を抱く子どもの声にも配慮し、より心地よく過ごせる方法を検討している。保護者とも密に連携し、最新の情報を共有することで安心して利用できる体制を整え、子どもの健康と安全を最優先にした支援を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>健康習慣の定着と主体的な安全行動の姿勢を育てることを大切にしている</b></p> <p>子どもたちが自分の健康や安全を意識して生活できるよう、日々の活動を通して基本的な生活習慣の定着を図っている。特に、室内に入る前の手洗いを徹底し、感染症予防に対する理解が深まるよう継続的に働きかけ健康習慣の定着を支援している。また、ケガ防止のために校庭の状況や危険箇所をアナウンスし、子ども自身が危険に気づき、どのように行動すると安全かを考えられるような声かけを行っている。子どもが受け身ではなく習慣化できるよう、遊びや日常の流れに自然に取り入れ、自分の健康と安全を守る主体的な姿勢を育てることを大切にしている。</p> <p><b>子どもたちが安全で落ち着いた環境で毎日を過ごせるよう、丁寧な関わりを重ねている</b></p> <p>子どもの健康状態や心身の変化を細やかに見守り、安心して生活できるよう配慮している。特に、体調不良や疲れが見られる場合には、遊び方や活動量を調整し、必要に応じて休憩できるような環境を整えている。また、ケガへの対応は状況に応じて迅速かつ丁寧に処置を行い、首から上のケガについては必ず保護者へ連絡し、家庭と連携しながら安全確保に努めている。日々の子どもの様子を把握し、些細な変化にも気づけるよう職員間で共有し、継続した見守りができる体制を整えている。その時々状況に合わせて支援の方法を見直し、改善できるよう努めている。</p> <p><b>子どもと保護者の安心につながる環境づくりに連携しながら取り組んでいる</b></p> <p>医療的ケアが必要な子どもが安全で安心して生活できるよう、確実に対応できる体制を整えている。特に、事前におやつメニューを保護者に内容を確認してもらい、管理が適切に行えるよう連携している。日々の健康状態や気になる点についても保護者とこまめに情報共有し、安心してケアが進められるよう努めている。職員間でもケア方法や注意点を共有し、適切に対応できる体制づくりに努めている。医療的ケアとあわせて、生活全体を通して無理なく過ごせるよう、体調や疲れに応じた活動調整や休息の確保を行っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者との対話を通じて、安心して相談できる信頼関係と支援体制づくりに努めている</b></p> <p>新BOP学童クラブでは、保護者が気軽に相談できる雰囲気づくりを重視し、お迎え時の会話や面談の中で丁寧に耳を傾け、安心して話せる関係づくりに努めている。子育ての何気ない会話、悩みや不安にも寄り添い、職員全員が温かく受け止める姿勢で対応している。子どもの様子や成長、生活の変化については、日々のやりとりを通じて保護者と情報を共有し、新BOPの運営指針の一貫性を保ちながら家庭との共通理解を深めている。こうしたコミュニケーションを通じて、保護者が安心して相談できる信頼関係と支援体制づくりに努めている。</p> <p><b>保護者同士がつながる環境作りを進め、子育てと就労を支える運営の充実が期待される</b></p> <p>新BOP学童クラブでは、保護者がつながり合える環境づくりに力を入れている。保護者会の開催に加え、終了後には自由な懇談や意見交換の時間を設け、子育ての悩みや情報を共有し合う場としている。また、子育ての交流の輪を広げることも大切に考えている。こうした取り組みは、保護者同士のコミュニケーション促進だけでなく、子育てと就労の両立を支える心の支援にもつながっている。今後も、職員が主体的に環境を整え、安心して利用できる学童クラブ運営の充実が期待される。</p> <p><b>保護者・学校・地域と連携し、子どもの安全を確保する運営体制づくりを行っている</b></p> <p>新BOP学童クラブでは、保護者との信頼関係を深めることを重視し、送迎時や面談を通じて丁寧に対話を重ね、子どもの成長や家庭の状況を共有している。登退所管理ではICTツールを活用し、登退所時刻や保護者のお迎えの有無を正確に把握するとともに、未登所時には速やかに保護者へ連絡するなど、安全確認を徹底している。さらに、学校や児童館、地域とも連携し、地域全体で子どもを見守る体制づくりに努めている。こうした地域に目を向け、きめ細やかな対応により、保護者と協力しながら、信頼に支えられた安全な運営体制づくりを行っている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>新しい遊具やスポーツを取り入れ、じっくり遊べる環境づくりに取り組んでいる</b></p> <p>新BOP学童クラブでは、子どもたちが多様な遊びの体験を積めるよう取り組んでいる。遊具メーカーの協力を得て、テーブルゲームや少し広いスペースで遊べる新しい遊具を試用し、子どもと職員と一緒に体験して選定するなど、楽しみながら主体的に関われる方法で遊具の確保を行っている。また、今後は室内でも楽しめるポッチャの導入も検討しており、地域で親しまれるスポーツを通して協調性や異年齢の交流を育む場づくりも進めている。こうした活動を通じて、限られた空間でも子どもたちがじっくり遊べる環境づくりに取り組んでいる。</p> <p><b>地域・学校と連携し交流の機会を設け、社会性と協調性を育む取り組みを進めている</b></p> <p>新BOP学童クラブでは、地域の人々との関わりを大切に、子どもが地域の大人や他校の友達と交流できる場を設けている。コマ・ベーゴマ回しを指導する地域ボランティアによる定期的な活動は、子どもたちが技を競い合い、年齢を超えてつながる機会となっている。また、児童館との連携遊びやイベント、児童館対抗ドッジボール大会、学校行事の子どもまつりなどにも参加し、学校や地域との連携を通じて、多様な交流の場を広げている。こうした取り組みを通して、子どもたちが社会性や協調性を育めるよう取り組んでいる。</p> <p><b>職員の特技などを活かした遊びの展開で、自発性・社会性を育む居場所づくりを進めている</b></p> <p>新BOP学童クラブでは、地域の多様な人材とつながりを持ち、子どもたちが多彩な遊びの経験を積めるよう取り組んでいる。プレイングパートナーがスポーツで培った技術や、あるいは教育現場で得た経験を活かして支援を行うことで、子どもたちは楽しさを実感しながら自ら遊びを工夫する力を育んでいる。また、こうした大人との関わりを通じて新しい遊びを知り、他者との関わり方を学んでいる。こうした多様な体験を重ねることで、子どもの自発性と社会性を育み、安心して安全に過ごせる居場所づくりを進めている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	現場実習型研修を導入し、行政と現場が連携した人材育成を進めている	
内容①	区および新BOP学童クラブでは、研修制度の質向上を喫緊の課題として位置づけ、実効性のある人材育成体制の構築に力を入れている。特に、児童課主催の研修においては、頻度や内容の見直しを進め、現場の実情に即した研修体系の確立を目指している。その一環として、課の職員が実際に学童クラブで支援体験を行う現場実習型の研修を導入した。この取り組みは、現場環境を直接理解したうえで研修内容を再設計することを目的としており、現場と行政が双方向に学び合う新たな仕組みとして期待されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	ミーティングを通じて職員間の情報を共有し、子どもの成長を支える体制を整えている	
内容②	新BOP学童クラブでは、職員間の情報共有を重視し、子どもの様子や支援の方向性を全体で確認する体制を整えている。日々の支援で気づいた点や変化は、ミーティングや月例ロングミーティングを通して共有し、支援内容の統一や改善につなげている。情報はノートに記入し、付箋を貼るなどの方法を用い、誰もが必要な情報を確認できるようにしている。職員はお互いの経験や得意分野を活かして意見を出し合い、学び合いながら子どもの成長を支えている。こうした協働的な姿勢が、安心して過ごせる支援体制の基盤となっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	第二の家庭として安心と信頼を育む学童の居場所づくりを目指している	
内容③	新BOP学童クラブでは、子どもが「また明日も行きたい」と思える「第二の家庭」のような居場所づくりに力を入れている。特に、子どもの気持ちに丁寧に関わり、トラブルはその日のうちに解消して嫌な気持ちを翌日に持ち越させない姿勢がある。日々の小さな声を丁寧に受け止め、共感を大切にしたり関わりを積み重ね、子どもとの信頼関係を築いている。また、子どもが職員を愛称で呼び、対等で温かな関係が自然に育まれている。保護者が安心して仕事に向かえるよう相談しやすい体制を整え、父母会が保護者同士の交流を支える役割も果たしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	相互に尊重し合うことでチームワークを育むとともに、個の力を結集し組織力を最大化できるようマネジメントをしている
	内容	役職や雇用形態を問わず、全職員が自由に意見や気づきを発言できる風通しの良い環境づくりを重視している。チームワークと個々の考えや視点を尊重しながら、情報共有と意見交換を重ねる中で自然に形成されるものとして、職員一人ひとりの力を信頼し、それらが結集した時に発揮される組織の力を最大化することを目標としている。新BOP学童クラブでは「大人が笑顔で挨拶を交わすことが基本」であるとして、職員が楽しく働く姿勢こそが、子どもたちの明るい表情と安心感につながると考えている。
2	タイトル	説明会や面談を通じて家庭と連携を図り、子どもと保護者が安心して学童クラブ生活を始められるよう支援している
	内容	新BOP学童クラブでは、利用開始前から子どもと保護者に寄り添い、安心して新しい環境に入れるよう丁寧な支援を行っている。入会説明会や面談、配布資料など複数の媒体を用いて、利用上のルールや安全面の約束事をわかりやすく説明し、家庭でも確認できる体制を整えている。利用開始直後は、保護者からの意向や子どもの様子を丁寧に聞き取り、ミーティングで共有することで職員間の統一した対応につなげている。さらに、学校や父母会とも連携し、落ち着いて過ごせる環境を整えるなど、子どもが安心して学童クラブ生活を始められるよう支援している。
3	タイトル	職員各自の主体性や強みを活かして子どもに向き合っており、保護者が安心できるような取り組みもしている
	内容	職員に向けた職務・勤務マニュアルが整備され、経験年数を問わず共通理解の下で支援にあたることができている。職員からは「主体的に子どもと関わられる」「多様な職員が強みを発揮できる」という声があり、各自の主体性や強みを活かして子どもに向き合っている様子がうかがわれる。また、保育士などの資格を持つ職員が相談に応じられる体制があり、保護者の安心につながっている。さらに、入会のしおり「若林小新BOP手帳」では、自立に向けた留守番のポイントなどが先輩保護者の経験談として示されており、将来的な不安の軽減につながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	柔軟なシフト管理で支援基盤を確保しているが、今後は欠員時の人員配置のあり方について検討していくことに期待したい
	内容	安定した支援体制の維持を目的に、非常勤職員とプレイングパートナーによる柔軟なシフト運用を行っている。急な欠勤時にはプレイングパートナーが対応し、現在の人員配置の中で必要に応じた採用を行うなど、運営の安定化に寄与している。一方で、指導員の配置は児童課の判断に依存するため、欠員時の即応性に課題を抱えている。教育や指導は日々の実務とミーティングを通じて補完しており、現場の連携力が運営を支えている。人員体制は質の高い支援の基盤であるため、今後は欠員時の人員配置のあり方について検討していくことに期待したい。
2	タイトル	マニュアル活用と定期点検、職員の日々の気づき、保護者・子どもの声を活かした職務改善を継続的に進める仕組みづくりが期待される
	内容	新BOP学童クラブでは、区が作成したマニュアルを基に、感染症対応や災害時、救急・事故の対応など基本的な手順を明確にしている。日々の支援の中で生まれた気づきはミーティングで共有され、子どもが安心して過ごせる環境づくりに活かされている。一方で、手順の点検や見直しは改定時の対応にとどまり、日常的な振り返りや自己チェック、利用者の声を活かす仕組みは十分とはいえない。今後は、定期的な点検や実地研修を取り入れ、保護者や子どもの声を反映しながら、職務改善を継続的に進める仕組みづくりが期待される。
3	タイトル	職員の工夫に加え、地域との協力関係を通じて、さらに遊びの幅と体験の質を広げる取り組みに期待したい
	内容	現在も、職員の得意分野を活かしつつ、誰でも取り組みやすいよう工夫されている。緩やかなルールのゲームや季節の編み物など、無理なく挑戦できる遊びが用意されている。一方で、遊びが職員の経験に左右されやすい側面もある。例えば、様々な知見を持つ地域の方々の協力を得ることができれば、活動の幅がさらに広がると思われる。地域との関わりは子どもの生活圏や視野を広げる機会にもなると思われるため、遊びや体験の幅をさらに広げていくことにつながる地域との協力関係のあり方について検討していくことに期待したい。